



# “人間はいかにして自律的思考を形成しうるか？”

## 准教授 藤井 基貴 (教育哲学・道德教育)

1975年12月生まれ。2005年名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程修了、2007年名古屋大学高等教育研究センター特任講師、2008年静岡大学教育学部准教授  
2013年より第2期若手重点研究者、2016年より第3期若手重点研究者  
2022年より第5期研究フェロー

### 研究概要

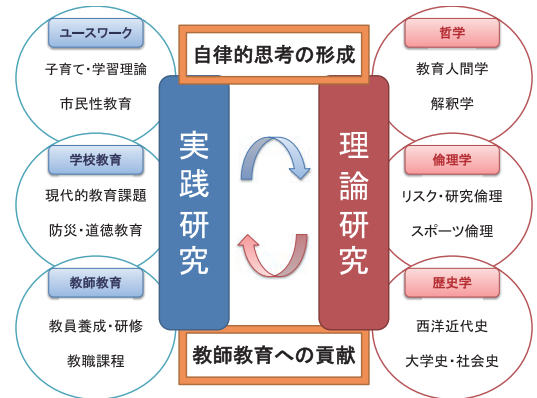
#### ①理論研究

1) 近代ドイツ教育学に関する思想的・歴史的研究、2) 大学における教員養成の理念および制度に関する研究、3) 研究倫理および学問の自律性に関する研究を進めています。また、本学の姉妹校であるネブラスカ大学オマハ校の研究者たちと西洋哲学を主題とした国際共同研究を行っており、日本における西洋哲学の受容史・影響作用史に関する研究にも取り組んでいます。

#### ②実践研究

「自律的思考」(Selbstdenken)を鍵概念として、その形成を目指す教育活動に関する実践的な研究を進めています。2020年に「静岡大学現代教育研究所」を設立し、学内外の研究者たちと現代的教育課題に関する教材・授業開発を推進しています。また研究室では所属する学生たちと防災やSDGsに関する教育実践を行っています。

上記①、②を通して、教育学における「理論と実践の往還」をはかるとともに、より質の高い教員の養成に力を注いでいます。



### メッセージ

大学時代は哲学を学び、大学院進学後は教育学を専攻し、前職では高等教育の研究に従事し、本学に着任してからは教育哲学と道德教育を専門領域として研究活動を進めてまいりました。2010年度からは研究室の学生たちと共に防災教育や道德教育に関する教材および授業開発に取り組んでいます。

私の研究室では「Footwork & Network」、「Challenge & Change」、「Response & Responsibility」の三つを柱として、学生たちがどん欲に学び、行動することを奨励・応援しています。これまでに研究室に所属した学生たちの多くは、学校での訪問活動や海外留学などを経験し、卒業後も学校や保育園などの教育の場で実践を重ねています。今後も理論研究と実践研究を両輪として、地域に根ざしながら、世界を展望できる人材の育成に貢献できたらと思っています。

### 【主な研究業績】

#### 受賞歴：

教育史学会「研究奨励賞」(2012)、日本乳幼児教育学会「研究奨励賞」(2006)、1.17防災未来賞「ぼうさい大賞」(2020、2018、2017、2016)、「優秀賞」(2021、2019、2015)。大学SDGs Action! Awards 2021「グランプリ」、「オーディエンス賞」  
外部資金獲得状況：科学研究費補助金：  
基盤研究(C)「ドイツにおける『責任ある研究・イノベーション(RRI)』教育の制度論的研究」(2019) 基盤研究(C)「ドイツにおける『研究公正システム』の構築と展開に関する思想的・制度的研究」(2015-2019)、若手研究(B)「近代ドイツにおける『衛生学・衛生教育』の誕生と普及に関する歴史的研究」(2012-2014) その他21件。

#### 委員等：

文部科学省「中央教育審議会」専門委員(2011-2021)、日本卓球協会「スポーツ医・科学委員会」委員(2018-)、文部科学省「研究倫理・研究公正に関する有識者委員」(2014、2018、2019)等。  
大学改革支援・学位授与機構による法人評価：卓越した研究業績(SS)  
「近代ドイツ教育思想史に関する研究」(2017)  
「防災教育に関する理論的・実践的研究」(2017)  
「近現代ドイツ教育思想史に関する研究」(2021)  
「防災教育の関する理論的・実践的研究」(2021)

#### 著書・論文：

『学問の自由の国際比較』(共著)岩波書店、2022年、『自律的思考を促すスポーツ・インテグリティ教育』(編著)、静岡学術出版、2021年、『道德教育』(編著)ミネルヴァ書房、2019年、『教育史におけるカントー大学史・教育思想史・影響作用史ー』『日本カント研究』16、2015年、67-86頁。『18世紀ドイツにおける子育ての近代化ーファウスト』『衛星問答』に注目してー『日本の教育史学』教育史学会編、55集、2012年、85-97頁、その他110本。